

7市町オープンデータ推進 会議活動事例のご紹介

平成31年1月11日

7市町オープンデータ推進会議構成メンバー

東郷町 企画情報課

情報推進係 係長 伊藤 伸也

目 次

1. 7市町オープンデータ推進会議の発足
2. 共通整備項目の実績
3. 注意して進めたこと
4. 7市町共同で推進したメリット
5. 今後の取組み

1. 7市町オープンデータ推進会議の発足

☆ 尾三地区自治体間連携（豊明市・日進市・みよし市・長久手市・東郷町）

- (1) 「尾三地区情報システム共同研究会」の下部組織として発足
- (2) 名古屋大学大学院 浦田真由先生及び名古屋大学と同大学院で情報分野を研究する学生の参加
- (3) 周辺の先進団体（瀬戸市、尾張旭市）を巻き込む

⇒使ってもらえるデータを作成し、わかりやすく公開する

2. 共通整備項目の実績

- ☆ 7市町で共通化したデータ項目 11分野13項目
- ☆ 7市町の担当者が集まった会議の回数 9回(16か月、3時間/回)
- ☆ 共通データ様式へ変換するマクロ 13種類
- ☆ データを利用してもらうための「使いやすい見た目」
 - (1) データ様式（レイアウト）及び項目名の統一
 - (2) ホームページへの記載方法（ユニバーサルメニューへの対応）
- ☆ 共通で使用するアイコンの作成 学生さんの取組
- ☆ 公開先は各自治体の公式ホームページ(相互リンク)



3. 注意して進めたこと

☆ 公開データ選定時に注意した点 ☆

- (1) 公開データの絞り込みについて
各自治体の取組み状況や取組みやすさから選択
- (2) 各団体で既に公開されているデータの扱いについて
7市町オープンデータ推進会議で協議されたフォーマットに変更

☆ 各データ項目で注意した点 ☆

- (1) 避難所の考え方について
避難所区分の考え方は、災害対策基本法に基づく記載に統一
- (2) バス停の判別について
巡回バスには、右回り左回りの違いで同名のバス停があり、方向によりバス停の位置が違うので、1つのバス停に1つのIDを付与し一意性を確保

☆ ホームページへ公開するときに注意した点 ☆

7市町間のホームページを簡単に移動できるよう、相互にリンクを設置

4. 7市町共同で推進したメリット

☆ 各担当課への調整がスムーズ

共同で推進していることを説明すると、**協力が得やすい**

☆ データ利用者が近隣自治体のデータを活用してくれる

「生活は単一の自治体で収まらない」→**面的公開**が可能に

☆ 各担当課にも近隣自治体のデータを業務に活かしてもらえる

☆ オープンデータ**以外の情報共有**が自治体間で**活発**になった

5. 今後の取組み

☆ オープンデータの拡充

防災資機材データ

公衆トイレデータ

☆ 庁内への普及啓発

各担当課への研修

オープンデータ推進担当者への研修

☆ 二次利用に向けた研究/支援

産学官連携によるアプリ開発